

憲法の紙芝居に取り組んで

後藤 真帆／富田 瑠那（埼玉県立皆野高校）

地域の戦争展で憲法の紙芝居を行って、憲法について深く考えました。作っていて思ったことは、いじめと憲法にはあまり関係が無いように思っていたけど、いじめは法の下の平等に反しているということに気づきました。憲法は意外と身近なところにあるのだと思いました。実際に上演して、見ている人にわかりやすく伝えることは難しいなと思いました。普段は体験できないことをさせてもらいました。作った私たちも見た人たちも、いじめと憲法の関わりを感じられたと思います。他のイベントで、憲法9条について考えた時、その大切さを知りました。9条がなくなったらどのようなことが起こるのか、軍隊はもつべきなのかなど色々なことを意見に申し合いました。様々な意見を聞いて感じたことは、日本の平和は9条によって守られていて、とても重要な役割をしていて、なくてはならないものだということが分かりました。このイベントや紙芝居を通して、憲法の中に日本にとって大切なものを見つけられて良かったです。いまでは憲法と言われても想像があんまりつかなかったけど、今では何となく想像がつくようになりました。9条の他にも平和に関する憲法に触れて、色々なことを学んでいきたいと思っています。憲法の紙芝居をやりとげられてうれしかったです。やって正解でした。新しいことにチャレンジして、自分が知らなかったことを知れて楽しかったです。

（1年 後藤 真帆）

私は最初は憲法についてあまり知らなくて、学校で少し習ったぐらいでした。でも、先生に誘われて憲法の紙芝居を作ることによって憲法について関心を持つようになりました。

私に取り組んだ憲法の紙芝居はいじめをテーマにしたものでした。まず、話を区別しながら作るのが大変でした。イラストにもそれぞれのキャラの顔を強調しながら描きました。又、紙芝居を描くだけではなく音読をしなければいけないので、お話を読み返し声に出して読みながら、聞く相手によく話の内容がわかるように工夫もしました。そのうちに憲法について興味を持つようになりました。憲法と私たちの生活が関係があることが分かり、学校とは違う学び方で、より憲法の勉強にもなりました。

そして、8月の本番当日の時がきたときは緊張しましたが、今までやってきたことを思い出したら、不思議と自信も出ました。いよいよ私たちの出番となりました。紙芝居のイラストの方はスクリーンで写し、今まで以上の感情を込めながら音読をしました。結果、たくさんの人々に拍手を貰いました。私たちの気持ちが届いたのかとても嬉しかったです。

これからも憲法について学びたいと思いました。それと、学生や若い人は憲法のことを知らない人がいると思います。それでこの憲法の紙芝居を広める活動をしていきたいです。そして紙芝居を見た人も憲法のことを更に興味を持ち、憲法を広めてほしいです。

（1年 富田 瑠那）